

## 各分野共通の標準化活動に関する論点(案)

項目	考えられる論点及び関係者の主な意見
1. 活動支援の現状や今後のあり方(官民の役割分担)	<p><b>【考えられる論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 官による活動支援の意義は何か。(国際競争力強化、国民的課題解決への貢献等)</li> <li>➢ 官による支援を行う場合、具体的にどのような条件を設定すべきか。</li> <li>➢ 支援による効果の評価手法はどうあるべきか。</li> </ul> <p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 関係者間における戦略の共有や利害調整のため、国が主導し、<u>標準化活動を継続的に進める体制を維持することが必要</u>＜サイネージ、縦書きレイアウト＞</li> <li>➢ 関連する事業や要素技術が多岐にわたる標準化分野において、関係者間の対応がバラバラにならないように、<u>関係府省間、関係企業・団体間の連携が必要</u>＜スマグリ・ホーム/モバイル、ウェブとテレビ＞</li> <li>➢ 標準規格の海外での実用化を見据えると、規格の策定段階から海外諸国の法規制も考慮する必要があり、そのためには<u>官民連携による取組が有効</u>＜ウェブとテレビ＞</li> <li>➢ 標準化活動においては国際会議への継続的な参加が必要で、例えばIEEEでは投票権の維持のために数か月ごとの会合への一定の出席率が必要であることから、出張旅費の負担が大きくなっているため、官による<u>旅費支援があれば有効</u>＜スマグリ・メータ、サイネージ、次世代ブラウザ＞</li> <li>➢ 重要な決定がある局面で国内の多数の関係者が出席すべき場合や、日本が標準化提案中のシステムやサービスのデモを実施して他国の理解を深めるためには、<u>国際会議の誘致支援が有効</u>＜スマグリ・ホーム/メータ、サイネージ、次世代ブラウザ＞</li> <li>➢ W3CやIETFでは、標準採用のためには2者以上による実装が条件となるが、最終的に標準採用されないリスクがあるため、その技術が我が国の産業全体の活性化につながるならば、官による<u>プロトタイプの開発、サンプル実装(特に2者以上によるインターオペラブルな実装)のための支援が有効</u>＜サイネージ、次世代ブラウザ＞</li> <li>➢ 地域コミュニティにおけるエネルギー利用の効率化を現実のものにしていくためには、開発した要素技術や標準の総合的な検証のため、官民をあげた<u>地域実証プロジェクトの実施が不可欠</u>＜スマグリ・ホーム＞</li> <li>➢ ECが実施しているような<u>研究開発やパイロット実験に関する支援が有効な可能性</u>＜ウェブとテレビ＞</li> </ul>
2. 人材育成の考え方	<p><b>【考えられる論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大学での教育や、企業での標準化人材のキャリア形成はどうあるべきか。</li> <li>➢ 基本的にはOJTが中心にならざるを得ないのではないか。有効な育成プログラムとしてはどのようなものが考えられるか。(実施主体、具体的内容)</li> <li>➢ どのような条件の場合に、国としての関与が必要とされるのか。</li> </ul> <p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 標準化ノウハウを体得させるため、<u>若手人材を積極的に国際標準化活動に投入することが必要</u>＜スマグリ・モバイル、ウェブとテレビ＞</li> <li>➢ 若手人材の標準化経験の蓄積のため、経験豊富な<u>ベテラン人材と技術エキスパートの若手人材を組み合わせ</u>た活動の機会を付与することが重要＜スマグリ・メータ＞</li> <li>➢ 標準化活動の経験者が少ない新しい標準化分野においては、<u>言語を含むコミュニケーション能力に優れた人材と分野横断的なスキルを有する人材の組み合わせ</u>などフォーメーションの工夫が必要＜スマグリ・ホーム＞</li> <li>➢ 標準化活動には特殊なスキル、ノウハウが必要となるため、こうしたスキル等を身につける<u>育成プログラムの提供が必要</u>＜サイネージ、縦書きレイアウト＞</li> <li>➢ <u>教育、企業、学術領域それぞれの場での人材育成の評価の在り方</u>の検討が必要＜ウェブとテレビ＞</li> </ul>

項目	考えられる論点及び関係者の主な意見
3. 知財戦略との連携のあり方	<p><b>【考えられる論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 標準化活動におけるオープン化部分とブラックボックス化部分の見極めはどうあるべきか。</li> <li>▶ その見極めにあたり、国内外の関連分野の知財の現状分析が必要ではないか。</li> </ul> <p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日本の技術の優位性が損なわれないよう、寄書提案に先駆けた<u>知財の確保</u>が必要&lt;スマグリ・モバイル&gt;</li> <li>▶ 各社が保有する知財を活かしつつ、ビジネス拡大を図るためには、コンテンツ表示や接続インタフェースに関する技術など<u>パテントフリーでの標準化を推進する部分と</u>、コアとなる要素技術など<u>ブラックボックス化し知財権利を確保する部分と</u>を見極めた戦略の検討が必要&lt;スマグリ・ホーム、サイネージ、縦書きレイアウト&gt;</li> <li>▶ 知財権利を確保する部分については、自ら製造する場合、<u>コストダウン競争にならないような戦略も必要</u>&lt;スマグリ・ホーム&gt;</li> <li>▶ パテントのロイヤリティフリーを方針とするW3Cにおける標準化では、<u>自社パテント維持、オープン戦略、他社パテントのフリー化の取り組みが典型的</u>であり、こうした状況を踏まえて各社の強みを活かす戦略の検討が必要&lt;ウェブとテレビ&gt;</li> </ul>
4. 標準採用に向けて効果的と考えられる取組	<p><b>【考えられる論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 標準化活動において他国のプレーヤーとの連携方策はどうあるべきか。</li> <li>▶ 標準提案の有効性を示す上で、サンプル実装やシステム実証はどうあるべきか。</li> <li>▶ 標準化活動と、製品やシステムの海外展開活動との関係はどうあるべきか。</li> </ul> <p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 分野によっては各国の規制等に密接に関連するため、<u>日本と状況が近い国との連携、仲間作りが有効</u>&lt;スマグリ・ホーム/モバイル&gt;</li> <li>▶ 標準化提案の採用に向けた取り組みとして、<u>影響力が大きいステークホルダーとの国際協調や、サンプル実装の早期実現が重要</u>&lt;ウェブとテレビ&gt;</li> <li>▶ 国際会議を日本がホストし、その機会に<u>日本が提案する方式の実装推進イベントを実施</u>することが有効&lt;縦書きレイアウト&gt;</li> <li>▶ 標準提案の有効性を示すため、個々のインタフェースの検証だけでなく、<u>システム・サービス全体としての実証の取組を主導</u>することが有効&lt;スマグリ・ホーム&gt;</li> <li>▶ 海外への普及促進のためには、国内ユーザ企業が積極的に採用し、その<u>採用実績をもとに、海外企業に働きかける</u>ことが有効&lt;スマグリ・メータ&gt;</li> </ul>

項目	考えられる論点及び関係者の主な意見
5. 標準化活動におけるリスクマネジメントの考え方	<p><b>【考えられる論点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 標準化活動に関するリスクとしてどのようなものが考えられるか。</li> <li>➤ 想定されるリスクへの対策を具体化していくべきではないか。</li> </ul>
	<p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 関連する事業や要素技術が多岐にわたる場合、技術の普及促進の点で最も効果的な標準化団体を選定できないリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 当該分野で多大な影響力を有する標準化機関(例えばスマートグリッドの場合は米国NIST)との連携を深める&lt;スマグリ・ホーム&gt;</li> </ul> </li> <li>➤ 地域ごとに異なる技術(標準)が発生するリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 関連する標準化団体との連携及び各業界における動向把握&lt;スマグリ・モバイル&gt;</li> </ul> </li> <li>➤ 影響力が大きい国際ステークホルダーの賛同が得られないことなどにより、標準化の内容が不十分になったりスケジュールが遅延したりするリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 議論のはじめから海外企業と連携を図りながら、日本企業が求める標準仕様を国際標準化機関に持ち込むことが重要&lt;サイネージ、ウェブとテレビ&gt;</li> </ul> </li> <li>➤ 標準化の遅延により独自仕様が乱立するリスク <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 優先順位の高い機能に絞って標準化を進捗させるほか、海外連携による仲間づくりを行う&lt;縦書きレイアウト&gt;</li> </ul> </li> </ul>